

会議名	平成２９年度第２回西尾市図書館協議会
日 時	平成２９年１０月２０日（金）午後３時～４時３０分
場 所	西尾市立図書館 会議室
出席者	尾崎会長、赤堀副会長、石原委員、伊奈委員、山下委員、大須賀委員、都築委員
市係等出席者	今井図書館長、原田館長補佐、生田主任主査
協議会の中で出されたことは以下のとおり。 １ あいさつ 尾崎会長 ２ 議題 （１）第１２回にしお本まつりについて 今年度のにしお本まつりの行事内容について、今井館長から報告。（資料１） 図書館のメインの行事としては、「橘ノ圓滿の図書館寄席」。また「本の箱を作ろう」は、子ども読書活動推進計画第三次の中にある「読書環境の整備」の中の新規施策である「家庭に本を置くスペースを作る」に沿って企画したものである。また、昨年度からの変更としては、読書感想画の表彰式を二日目にした。行事や駐車場の混雑を避けるための試みである。 質問 「本の箱を作ろう」はもう申し込みはあるのか。 → 親子２０組の定員で、１０月７日から申し込みを受け１週間で定員に達した。 意見 今回作れなくてもこういうものがあると整理しやすいと思うので、カウンターに置いておき、作ってみませんかとＰＲすると思う。 → 子ども読書活動推進計画第三次の中で、家庭内で手に取りやすい場所に本を置くスペース作りをして家庭地域での読書推進をしていこう、ということで計画をしている。年２回開催が目標となっている。 質問 箱の大きさはどれくらいか。 → （実物をお見せする）図書館に本が納品される段ボール箱を使って作ってある。本の箱の作り方の載った本もいろいろ出ている。定員になった後も電話での問い合わせがある。 質問 この箱は置いておくものなのか、持ち運びができるものなのか。 → 今回作るものは、家の中に置いておくものである。これから何回も開催する予定で、いろいろなパターンのもので作ると思う。 質問 受講する人は、これをもらえるのか。 → はい、作って持って帰っていただける。中に牛乳パックが入っているので、大きい本の時はそれを出せば調整ができる。 意見 カウンターにこの箱があっても気づかないのはどうか。段ボールとガムテープでこんな棚ができますよ、というようなものを上に貼っておくとよい。そうすれば、家でも作ってみようと思うのではないか。 意見 このポスターにサイズと作り方を載せてあげたらどうか。家で作るために。 意見 この見本があれば家で考えられる。サイズもそれぞれ入れるものに合わせて変えればよい。 意見 この箱は使えると思うので広めましょう。 質問 岩瀬弥助の関係は図書館では何もしないのか。 → いいえ、図書館としては２階の展示コーナーに岩瀬弥助の関係の本を展示することになっている。また、水曜おはなし会も岩瀬弥助の大型紙芝居を演じてくださる。 質問 駐車場は大丈夫か。 → 新しい駐車場をテニスコートの南側に２２台分作り、１０月３日から開放している。	

意見 まだPRが足りないと思う。テニスコートを使う人が停める場所かなと思ってしまふ。入り口に図書館の駐車場という表示をしたほうがよい。

→ 現在、暫定的に鶴城公園第2駐車場という表示を出している。

意見 私もテニスをする人用かなと思った。

意見 私は今日第2駐車場に停めてみたが、ガラガラだった。第1駐車場はいっぱいだったが。新しい方は出入りも中のUターンも楽である。

意見 カウンターで、使ってもいいですという表示があるとよい。

→ このチラシをカウンターで配布している。また、にしお本まつりの駐車場については、本まつりのチラシにご案内させていただいているが、土日ともに鶴城丘高校の正門内、日曜日は工藤眼科と西尾クリニックの職員駐車場に停めていただける。関係者は鶴城会館に停めることになっている。

(2) 利用者アンケートについて

生田主任主査より説明。(資料2)。

今までのアンケートでは毎年内容を変えていたが、今年度からは今後ずっと同じものをして続けて取っていく予定である。そして、満足度が上がることを目標とする。

質問 問2にある「西尾市立図書館(本館)」の本館は必要か。

→ アンケートをする3館で、この部分の館名を変えて用紙を作成する予定である。これは本館用のアンケート用紙である。どこの館のことを答えていただくかがわかるようにした。

質問 ふれあいセンターでもこのアンケートは行うのか。

→ ふれあいセンターでは行わない。また、一色学びの館は休館中なので、3館のみで実施する。

質問 本館用、吉良図書館用、幡豆図書館用としたほうがわかりやすいのではないか。複数館利用する人は、最初のところでアンケートをやったから、次の館ではやらないということにならないか。

意見 たとえば幡豆の人が本館に来て、「西尾市立図書館(本館)」と書いてあれば、幡豆図書館でもう答えた人でもあらためてやってくれると思う。

質問 このアンケートで一番知りたいことは何か。問8か。

→ はい。問8で満足度を聞き、来年、再来年とパーセントが上がっていくようにがんばっていくつもりである。

意見 一色の地区の人が、学びの館がないとどういう動きをするのかということもわかるね。

質問 満足度というのがこれでよいのか。図書館の施設整備といっても何をいうのか、と思わないか。といってあまり項目が多くても嫌になってしまう。

→ 西尾市の総合計画で、10年ごとに作っているものがあるのだが、その中で図書館の満足度を上げるというのがあり、今が中間年になり5年先には満足度75パーセントというのが目標値で掲げている。図書館としてはもう少し細かいところで取っていったらどうか、というのがこのアンケートである。

意見 問8の(1)と(9)が特に答えにくいのではないかと思う。

意見 アンケートは一つ下げて考えろという。「満足」と書いた人は実際には「やや満足」である。

質問 満足度を聞いていて、「⑤利用したことがない」というのがわからない。

→ これは、図書館のホームページは見たことがない、とか本は借りるがCDやDVDは借りたことがない、という人もいると思い項目にした。

意見 質問が出るアンケートはだめだ。アンケートに答える人はわざわざ質問をしない。

例えば、図書館に行っているのに「施設・整備」に「利用したことがない」というのはどういうことか、と思わせるのはだめ。問8の中で方針として何を満足してもらうのか、リーダーシップ的なものがあって、それを高めていく。全般を高めるというのは非常に大きな労力と予算がいる。この図書館はこういう特色があって、市民にこう愛されている、親しまれていきたいというリーダーシップがあると、ここの項目がもっと限定

されてくる。そうするとアンケート結果も分析しやすいし、市民の協力も求めやすい。こういう形でアンケートをやらないと、ただやっただけになってしまう。焦点を絞ることが大事だと思う。

意見 これを今後ずっとやるということを言われた。同じ聞き方でないと満足度がわかってこないから、質問の内容が違っているとだめだね。そうするともう少し考えた方がよいのではないか。

質問 図書館の施設・整備は⑤になることはないね。

→ はい、⑤は当てはまらない設問もある。(1)、(7)、(9)は当てはまらないので、例えば斜線を引いておくなどしてみます。

質問 (9)は丸をつけるのに困らないか。無理に付け足したように思える。例えば、総合的に見た図書館全般で「満足」とした人は、何に満足したのか。

質問 先ほど満足度を75パーセントにするとされたが、その評価する基になるものがあるのか。これと同じ項目か。

→ 図書館で調べているのではなく、西尾市全体で無作為抽出するアンケートで、その中で図書館の利用について満足しているかと聞いている。

質問 どちらともいえないという意味で「普通」という選択肢が、普通はあるのではないか。

→ 以前の協議会で、真ん中の選択肢があると多くの人はそれを選んでしまうため、真ん中は作らない方がよいという意見があったため、今回は無しにした。

質問 項目によるのではないか。「普通」が多くてもよいのではないか。グレーゾーンはあった方がよい。

→ はい、それでは選択肢に真ん中の項目を追加します。

質問 ほかの図書館のアンケートはインターネットで調べたら出てこないか。(9)の図書館全般の満足度の項目はほかの図書館でもあるのか。

→ はい、あります。それらも参考にはしている。(9)の項目は、ある図書館もあるしなところもある。

意見 「改善してほしい」と言った人には、下に書いてほしいね。「改善してほしい」を選んだら、どういう改善をしてほしいかということを書く欄も作っておくとか。

意見 「職員の対応」などという項目はいらんのではないか。利用者もその時の気分で感じ方が違う。「対応」という言葉ではなく、「サービス」という言葉を使うのではないか。

意見 「満足度」について聞くものか。「図書館についてどのように思われますか」と聞いた方がよいのではないか。ほかの図書館も満足度を聞いているのか。

→ そういう図書館もある。

質問 「改善」と「満足」の対比は違うのではないか。「満足」に対しては「不満」であり、不満の場合の改善してほしいことを下を書くようにした方がよい。

→ はい、では「改善」は「不満」に直します。

意見 改善してほしい意見を聞いた方がよい。アンケートでそこを探らないと、次の対策が出てこない。

→ 自由記入欄に、「上で不満、改善してほしいこと、お気づきのことがあれば具体的にお書きください」というように記載する。

意見 「不満な点について改善してほしいことがありましたら、この中にお書きください」という表現にしたらどうか。

意見 「(9)総合的に見た全般」は(1)から(8)で網羅できるのではないか。これ以外で何か考えられるものがあるのか。

→ (1)から(8)をすべて含めての満足度というように考えている。

意見 先ほど出ていた、市の総合計画で満足度が75パーセントになるようにというのが、これになるわけだね。

質問 勉強しに来ているだけの人、特に目的もなく来ている人、部屋だけ借りに来ている人の満足度が出てこない。この設問で、図書館の満足度がすべて網羅されているのか。

→ 例えば学習だけをしに来ている人が、この問8でどこに丸を付けようかと思ったとき

に、貸出などをしていないので、「⑤利用したことがない」が必要かと思って選択肢を作った。

意見 例えば、「図書館の施設・設備」という言葉だけでは十分でないから、これについては、次回以降こういう風に変えてみるということで変更することもあるのかどうかということによって、今日どこまで妥協できるかだと思う。今は、もう変更しないでこのままいくだろうと思って意見を言っている。

意見 このアンケートはあまりにも一般的過ぎる。アンケートは導いていかないといけない。例えば図書館の設備に「満足」と選んだら、何に満足かという部位を選んでいく。丸を打つだけにして、書かせない。そうすれば、次のステップ、市に打診するときにこういうところが不満足だということを言っていける。このアンケートだと市民の声が導かれない。

→ そうすると設問がどんどん増えていくということにならないか。

意見 これだとあまりにも簡単で一般的過ぎる。今後ずっと使うと言われたので、いいものにして、市の予算取りできるものにしないとイケないのではと思う。

意見 施設についてだけでも、駐車場とか閲覧する場所とか、ほかの新しい図書館は、本を見るだけでなく老人から若い人まで話し合っていて、図書館がコミュニケーションの場所のようになり、本や新聞を見るだけの場所ではなくなって来ている。西尾市の図書館にはそのような皆さんが集まる場所が少ない。そういう具体的な項目の質問をしないとイケない。量と質でも、同じことが言える。

質問 吉良と幡豆図書館はホームページがあるのか

→ 図書館で一つのホームページである。

意見 目的者がどれを選んだかという細かい分析を後ですればよい。この場で代案を言うことができない。

→ 調査期間を少しずらすことも可能ですので、今いただいた意見をまとめて、作成してみる。

質問 調査期間は1か月取らないといけないのか。長くないか。

→ どのくらいの数が取れるかということで1か月みている。2週間に1回来る方がほとんどで、1か月に1回という方もいらっしゃる。この時期でやるというのも、昨年この時期だったので、同じ時期で提案させていただいている。変化を見るために同じ項目で毎年取った方がいいのではないかと考え、今回出させていただいた。今いただいたご意見では、もう少し時期をずらして練った方がよいと思う。

意見 満足度ではなく、改善して満足度を増やすことを考えた方がよいのではないと思う。こういう点を改善してほしいということを中心として、その中で図書館として受け入れられることを改善していくという方が、予算などいろいろな関係もあるだろうが、どのように図書館の仕事をするかによって改善策を探りながら進めていってほしい。若い人や新しい人からどういう要望があるか、周りの市に新しい図書館ができてきて、西尾は遅れてきている。その改善策を見て、努力できる方向性を見出すためのものにしてほしい。

(3) 西尾市立一色学びの館改修について

今井館長より説明（資料3）

実施計画を図面にて説明。また改修工事の工程、日程を説明。9月1日から工事が始まり、同日より一色町公民館で配本所を開設した。7月に市長が交代し、公共施設再配置事業は、改修を終えた事業を除き見直し作業を進めるため、計画を一時凍結することが表明されている。現在はSPC（特別目的会社）と凍結のための協議が進んでいないため、工事は進んでいる。

質問 この一色学びの館の工事はできるのか。

→ 凍結のための協議が済んでいないため、SPCも工事を止めるわけにはいかず、工事が進んでいる。

契約の中で、こういった一方的な工事の中止が求められることは想定されておらず、そういう場合はお互いの協議による、という項目で処理をされるという契約になっている。

る。現在、市は凍結をしたいと申し出をし、それを受けた業者と凍結に対応するためにどのようにするかという協議をされていて、凍結はしていない。そのため工事は進んでいる。

(4) その他について

原田館長補佐より報告（資料4）

- ・蔵書点検の結果について（資料4-1）

平成27年度からの不明本、今年度の不明本の内訳を資料4-1により報告。未貸出のもの、無断で持ち出されたものとあるが、年度を過ぎると数字は下がるため、今年度の不明冊数がすべて次年度に移るというわけではない。傾向としては、本館は全集本、一定の作者のものが不明になっている。対策は職員で検討している。

- ・上期の利用状況について（資料4-2）

一色が8月で閉館したため、1か月分少ない。そのため9月は、本館と吉良の利用が少し上がっている。一色配本所の10月の利用は、一日当たり57冊22人と多くはないが、予約本の受け取りとして利用している人がある。

- ・上期の図書館運営報告（資料4-3）

資料4-3により報告。

- ・上期の行事等報告（資料4-4）

資料4-4により報告。

「科学道100冊」というのは、出版社の企画で各館が連携して行った。理化学研究所と編集工学研究所の共同プロジェクト。出版社が展示物の物販を供給してくれて行った。後期に子ども向きの「科学道100冊ジュニア」を行う予定である。

質問 「科学道100冊」は100冊を展示したのか。

→ 本館は結構な割合で持っていたが、100冊すべてはなかった。それを全館で巡回した。

意見 ノーベル賞を取るような人が出るとよい。

- ・生田主任主査より次回の協議会の開催について説明

第3回は12月から1月頃を予定

会長により西尾市図書館協議会を閉会した。